

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	時事問題研究					授業形態	講義		
科目コード	750016	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	外前田 孝								
授業概要	<p>宮崎県の地方紙、宮崎日日新聞社に2021年3月まで35年間勤務し、丸30年を記者として過ごした。見出し付けやレイアウトをする整理部記者を皮切りに、報道部県警、市政、県政(キャップ)を担当したほか、東諸支局長、西都支局長、日南支社長と出先を経験。文化部デスク、運動部長、地域情報部長も務めた。私の場合、記者として日々の事件事故やイベント・行事などのストレートニュースでは伝えきれないものを、もっと現象を掘り下げた連載記事(ルポルタージュ)にして紙面に発表してきた。</p> <p>【著書】 「屈せざる魂」(これまで書いた人物ルポをまとめた、鉱脈社)、共著「人間力勝負 迫田テニス論」(宮商テニス部の名監督迫田義次さんの本、鉱脈社)、この夏に日本初の本格的冷や汁本「冷や汁彩々(仮称)」を刊行予定。</p> <p>本講義では、いくつかの今日的なテーマを選び、新聞や雑誌などの記事を手掛かりにニュースの本質をとらえる訓練を行う。それを通して、自分たちがどんな時代を生活しているのかわかるとともに、これから実社会で生きるための問題意識並びにニュースを見る目、さらには民主的な精神を培うことを目指す。</p>								
関連する科目	社会学、経済学、国際関係論、メディア論、法学、日本国憲法、倫理学、環境問題入門								
授業の進め方と方法	講義用のレジュメを基本的に作成し、コピー資料を用意する。 基本的に1時間は講義をし、残り30分は意見交換する。 毎回、「今」という時代の本質が見えるような展開を心掛ける。								
授業計画【第1回】	自己紹介、いまの時代は？								
授業計画【第2回】	ウクライナ侵攻…戦争を考える								
授業計画【第3回】	入管問題…ウィシュマ・サンダマリさん死亡問題を中心に								
授業計画【第4回】	食卓の向こう側…オーガニックごうだ経営の郷田美紀子さんを招いて								
授業計画【第5回】	教養が危ない								
授業計画【第6回】	国語が危ない…文学や詩の重要性								
授業計画【第7回】	原発と電力問題								
授業計画【第8回】	障がい者と共に生きる								
授業計画【第9回】	地方の危機⑤…現状								
授業計画【第10回】	地方の危機⑥…存続への打開策								
授業計画【第11回】	小農の時代								

授業計画 【第12回】	文章の書き方
授業計画 【第13回】	社説を書こう①
授業計画 【第14回】	社説を書こう②
授業計画 【第15回】	まとめ…自分の書いた社説の発表など
授業の到達目標	社会の日々生起する問題に関心を持ち、問題の本質がどこにあるのかを考える習慣を身につける。 授業での意見交換を通して、民主的な手法がいかに大事かを体感してもらう。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	授業計画に沿って事前に自分でそれぞれの問題について新聞記事などを調べ、大まかに知識を得ておく。
授業時間外の学修 【復習】	授業のあとレジュメや資料を熟読し、自分なりにあらためて問題の本質を考え整理する。
課題に対する フィードバック	社説を書く授業は、これまで私が話してきたテーマの中から一つを選んで小論文を書いてもらう。自分の考え、意見を文章化することで課題をより身近なものとして感じ、思考力を身につけてもらいたい。
評価方法・基準	授業中に書いてもらう「社説」が評価の6割(100点中60点)、試験のレポートが4割(同40点)として評価する。
テキスト	日々の新聞記事
参考書	『メディアの罭』(青木理ほか、産学社)、『人新世の「資本論」』(斎藤幸平、集英社新書)、『食卓の向こう側』(佐藤弘ほか、西日本新聞社ブックレット)など。 このほかTBSの「サンデーモーニング」「報道特集」やBS-TBS「報道730」を見ると、ニュースの概要や本質が分かる。
備考	